

は し が き

言語センター長 君 羅 久 則

言語センター広報 *Language Studies* の第 14 号をお届けいたします。前号で予定としてお知らせしました、マルチメディア LL 教室が完成し、今年 4 月から多くの授業で利用されています。従来の LL 教室をコンピュータを導入したマルチメディア型の教室に更新したもので、コンピュータ支援実習室(CALL)と従来の LL の機能を併せ持った教室となっています。プロジェクターとスクリーンも 2 セットに増設し、狭いながらも教室の前部分にステージ用のスペースも用意し、学生のプレゼンテーションや簡単なロールプレイなども授業として取り入れることが可能なように設計されています。また、本学教育開発センターの協力により、今年 7 月には、待望の e-Learning システムを導入することができました。これは、英語学習のコンテンツを含んだシステムで、授業に利用することもできるし、学生が学内のコンピュータを使って個別に学習することもできます。今回導入されたシステムは、英語の学習と教育に特化されていますが、今後は近い将来に他の外国語の教育や学生の学習においても利用できるシステムの構築を目指していきたいと考えています。本学には、外国語教育重視の伝統がありますが、その大きな要素として、語学実習室などの設備や施設を進取の精神で整備し、教授法などの発展に合わせて、教育や学習に役立てて来たことがあげられます。このようなソフトウェア面も含めた教育環境の整備を常に図っていくことは非常に重要なことであると考えられます。外国語の教授法や学生の学習の仕方にも様々な可能性を生み出し、FD の改善と発展にも大きく寄与することにもなるからです。

ネイティブ・スピーカーによる外国語会話の公開講座は、今年度も韓国語の講座も含めて 5 講座が開講されました。春から初夏にかけて、外国人教師マーク・ホルスト氏による前期英会話講座、本学ロシア語の非常勤講師であるアレクサンドル・スペヴァコフスキー氏によるロシア語会話講座、裴崢教授による中国語会話講座、昨年から新しく始まった全暉氏による韓国語講座、それに秋から初冬にかけてはブライアン・ペリー氏による後期英会話講座、の 5 講座が実施されました。このほかに、本学日本語の非常勤講師である大井裕子氏、木元てる代氏による「外国語としての日本語とその教授法」の公開講座も実施しております。この公開講座は、言語センターが平成 5 年度から毎年開催しており、韓国語講座、英会話講座を除いて受講者は必ずしも多くはありませんが、全講座とも熱心なリピーターもおり、受講された方々にはたいへん好評でした。

昨年度実施した、小樽まち育て運営協議会主催の OJT リーダー養成のための初級と中級の語学研修が、今年も同協議会より言語センターが委託を受ける形で、平成 17 年 11 月から開始され、来年 3 月まで続けられる予定です。いずれの研修も英語、中国語、韓国語の 3 言語について行われ、30 名が受講しています。

本学の教官と高校や中学校で教員をしている本学卒業生とで作る教職研究会の第 18 回大会が平成 17 年 12 月 10 日に言語センターマルチメディアホールとマルチメディア LL を会場として開催されました。今年度は、卒業生の高等学校教員の研究発表と実践報告のほか、「IT 機器を利用した授業づくり」と題して、ワークショップとセミナー等を盛り込んだプログラムで行われ、現役の学生を含む 50 数名が参加し、盛会でした。

さて、言語センター所属の教官の海外出張と研修についてご報告いたします。

個別言語部門ドイツ語系の副島美由紀助教授は、ベルリン自由大学、レオーヴァルター・シュピース資料室、デンパサール・ヴァルター・シュピース協会に在外研究に平成17年3月21日から平成18年3月15日の1年間、在外研究にあたり、引き続き約1年間の在外研修の予定、個別言語部門英語系の羽村貴史助教授は、平成17年3月15日から平成18年3月14日の1年間、マサチューセッツ大学アマス校にて在外研究、引き続き約1年間の在外研修を行う予定です。同じく英語系の高井收教授は、ポートランド州立大学に平成16年12月24日から平成17年1月10日および、平成17年8月24日から平成17年9月4日に出張され、平成17年3月23日から平成17年4月4日、学会参加のためテキサス州サンアントニオコンベンションセンターに出張、またホーチミン市歴史博物館に平成17年11月1日から平成17年11月5日、出張されました。個別言語部門ロシア語系の山田久就助教授は平成16年12月23日から平成17年1月10日および平成17年9月6日から平成17年9月30日に、ダゲスタン大学、ダゲスタン図書館、ロシア国立図書館に出張されました。個別言語部門中国語系の裴崢教授は、揚州大学及び北京師範大学に平成16年12月26日から平成17年1月12日、また平成17年8月24日から9月21日までの間、出張されました。外国人教師のブライアン・ペリー教官はイギリス、ウォリック大学に平成17年2月9日から平成17年2月24日、平成17年3月2日から平成17年3月19日および平成17年7月6日から9月30日の間、海外出張・研修をされています。個別言語部門英語系のクランキー・ショーン助教授は、ノースウェスタン大学法学部図書館に平成17年3月6日から平成17年3月22日に出張、さらに、学会発表と会議出席のため Lodz 大学（ポーランド）と Group ESC（グルノーブル）に平成17年8月31日から平成17年9月15日の間、出張されました。

個別言語部門フランス語系の江口修教授は本学の協定校表敬訪問のため中国と韓国に平成17年5月21日から平成17年5月28日に出張され、個別言語部門日本語系の高野寿子教授はアメリカ言語学会サマーインスティテュート（MIT、Harvard）に参加のため、平成17年7月16日から平成17年8月6日の間、出張されました。個別言語部門英語系の大島稔教授は科学研究費補助金による調査のため、ロシア連邦カムチャツカ州とコリヤーク自治区に平成17年8月8日から9月11日に出張され、同じく英語系の吉田直希助教授は学会打ち合わせ等のため、スタンフォード大学に平成17年9月5日から平成17年9月29日に出張、同じく英語系のカルヤヌ・ダニエラ助教授は学会発表のため、ウィーン大学に平成17年8月29日から9月17日までの間、出張されました。外国人教師のマーク・ホルスト教官はエジンバラ大学に平成18年8月27日から9月26日に出張されました。

例年の通り、今年も学生の活躍で特記すべきことがありましたので、お知らせしておきます。札幌姉妹都市協会主催の第24回ドイツ語暗唱大会で本学の学生が第1位と第3位に入賞しました。また、オーストリア・ドイツ語検定試験において中級（ドイツ語圏大学入学資格基準となる試験）に1名、同標準級に1名が合格しました。また、中国語では、北海道日中友好センター主催の中国語暗唱朗読大会（2005年9月25日開催）にて本学の4年生が同センター会長賞を受賞しています。平成13年度からはじまった新カリキュラムでは、外国語の必修単位そのものは減じられているものの、専門共通科目等、選択科目が増設され、4年間を通じて、外国の言語や文化の学習チャンスが一層拡大されていますから、更に深い異文化理解の教養を備え、広い視野を持った、「国際的教養人」とも言うべき多くの学生が輩出することを今後も期待できると思われます。